



統計学がブームになり、世間から大きな期待が寄せられている。残念ながら、統計学は人々の期待を裏切ってきた。不幸なことに、統計学は人々を騙す手段としても、多々利用されてきた。世の中の統計の数値やデータは、まず疑ってかかるのが、騙されない最良の方法であり、その対策について紹介することにする。

#### 第四十一話 統計数値に注意する⑥

##### 「統計学が最強の学問である」の嘘

「統計学が最強の学問である」が、大きな話題になっている。ビッグデータ時代を向かえ、超大量のデータが宝の山になるという思惑で、統計学にかつてない期待が集まっている。残念ながら、統計学はこれまで多くの人々の期待を裏切ってきた。これまでの統計利用の歴史を踏まえて言えば、「統計学は人を騙すのに最強の学問である」というべきであろう。

それは、統計学という学問が大変難解なためと、統計学の対象（経済、社会、人間）にしている現象が、あまりにも複雑怪奇なためである。これを良いことにして、人々を騙す手段として悪用する輩が、たくさんいる。

統計で他人を騙すというより、自分自身が騙されている事例も、枚挙に暇がない。研究者の論文や学会発表でも、間違った統計処理をしている例は大変多い。筆者個人としても、数多く見聞してきている。

英語に、『嘘、大嘘、そして統計』（英: Lies, damned lies, and statistics）という良く知られたフレーズがある。マーク・トウェインの書簡（1906年）によって、20世紀始めに既に、大衆化したフレーズになっている。

このフレーズは、「数字の説得力、特に弱い論証を支えるために統計が使用されることを言い表した表現である。また相手の意見を証明するために用いられた統計を疑う時に口語的に用いられることもある」（ウィキペディア）と説明されている。

一番身近な例は、日本も含め各国政府が発表する統計数値である。政府の統計専

門家が発表する数値に、ウソが多い、裏切られたと、国民の多くが実感している。グーグルで、{政府 統計 ウソ}、{政府 数字 嘘}などと、キーワード検索すれば、大量の事例が、様々なサイトから検索される。

各国の政府統計の中で、世界中から懐疑的に見られているのは、中国や韓国の政府統計である。{中国 統計 ウソ}と検索すれば、約 2,790,000 件が検索される。{韓国 統計 ウソ}と検索すれば、約 2,460,000 件が検索される。

統計のウソを調べるキーワードとしては、「統計」のほかに「データ、数値、数字...」、「ウソ」のほかに、「水増し バイアス 過大（過小）評価、嘘（うそ）、ごまかし、捏造、粉飾、矛盾、乖離、誤差...」などの用語がある。これらの用語をうまく組み合わせてキーワード検索をすれば、数多くのサイトが検索される。

たとえば、「中国、好調な輸出統計に水増し疑惑」（ウォール・ストリート・ジャーナル、2014年2月13日）、「中国の経済統計はねつ造だらけ？世界中が嘘データに踊らされる羽目に—米誌」（レコードチャイナ、2012年7月14日）、「中国 GDP 統計は信頼できない—07年に李克強氏＝ウィキリークス」（ロイター、2010年12月6日）といった具合である。

現在、世間の人々に求められているのは、統計や数字のカラクリを見抜くリテラシーにあるとあってよい。NHKのクローズアップ現代の「数字のカラクリ・データの真実～統計学ブームのヒミツ～」(2013年7月3日(水)放送)のタイトルが、端的に、この事を物語っている。

統計学や数値データのリテラシーに欠ける一般人にとって、「数字のカラクリに注意しろ」と言われても、どうしてよいかわからないのが実際問題であろう。専門家さえも、騙されるケースが多いのであるから。

一般人の対策としては、3つを提言したい。一つは、ネット上で同種の記事や関連情報とを調べて、比較参照することである。数値のウラ読みする習慣を身につけることが大切だといってよい。たとえば、「中国 輸出好調...」といった記事を見たら、とりあえず、{中国 輸出好調 ウソ}、{中国 輸出好調 水増し}という具合に、「ウソ、水増し」というキーワードを加えて、ネット検索してみることである。

二つは、疑問を感じた統計数値については、その分野の専門家（統計学の専門家ではなく、経済学や経営学の専門家）の意見やコメントを調べることである。この場合の問題は、残念ながら専門家の間でも見解が異なる場合が多いことである。このため、自分が信頼できる専門家を、日頃から探しておくことが必要になる。

三つ目は、統計のウソを見抜く方法について解説しているテキストを見つけて、騙されないためのリテラシーを、少しでも身につけることである。テキストとしては、市販されている書籍、新書や文庫本がお勧めである。アマゾンドットコムなどの書籍サイトで、{統計 うそ}、{統計 だまされない}などと検索すれば、著者と書籍名が入手できる。この入手した書籍名で、再びネット検索して、その書評や評判を調べて、そのテキストの信頼度を確かめてから、入手することである。